

授業科目名 <英訳>	感情・システム生命論演習II Seminar on emotion and system life science II				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 野村 理朗					
配当 学年	院	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	課題演習	使用 言語	日本語
共用科目											
【授業の概要・目的】											
広い意味での社会・感情・生命科学を研究する大学院生を対象とし、修士課程の大学院生には修士論文作成に向けて、博士課程の大学院生には博士論文、特にはその基礎となる原著論文作成に向けて、背景となる先行研究の検討、実験計画、データ分析、論文執筆などに関わる指導を行う。											
【到達目標】											
実験や調査研究を計画して、データを採取・解釈することを基礎とし、そこで得られた成果を国際学術雑誌の原著論文として投稿し、受理されるための能力を涵養する。また、こうした一連の研究成果を学位論文としてまとめるために、自身の研究を相対化し、これを行うことの意義を明確化するための視点を養う。											
【授業計画と内容】											
第一週はイントロダクション、受講生と相談のうえ進行のスケジュールを決める。第二週以降は、毎回、大学院生・研究員が、研究発表（研究計画、結果報告）または論文紹介（英語原著論文・展望等）を行い、全員で討論する。発表に際しては、発表要旨を事前にメーリングリストで配布し、発表当日はプレゼンテーション、配布資料等を用いて効果的に行う。											
【履修要件】											
心理学を土台とし、生命科学や社会での実践を視野に入れた研究に必要とされる基礎知識があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の発表、議論への参加姿勢（50%）、およびその前後において必要となる実験の実施・結果の分析、論文の執筆のプロセス（50%）を評価する。 評価基準は、到達目標について、教育学研究科の評価基準に従って評価する。											
【教科書】											
特に指定しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
先行研究を積極的に読むこととともに、自身の研究結果を発信するために、果敢に論文執筆にチャレンジすること。論文執筆の実力を養う一番の方法は、書くことである。とにかく書く。くわえて、国際学術雑誌に投稿する都度、内容の改善を心がけること。これを繰り返すうちに、論文がアクセプトされるだけの実力が備わってゆくためである。											
（その他（オフィスアワー等））											
『便覧』オフィスアワーの欄参照 授業責任者連絡先 E-mail:nomura.michio.8u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											